

令和7年度第1回甲山森林公園管理運営協議会における委員意見

資料1

No,	大分類	小分類	意見要旨
1	自然環境保全	ゾーニング図について	・現状、自然を楽しむ人が多く、人込みになると快適ではなくなる。既に噴水周辺や芝生広場など人が行く場所は決まっていてゾーニングされている。そういう作り方で良い。（野澤委員） ・樹木管理をすべきエリア、放ってよいエリア、放っておくべきエリアなど、もう少し検討すべき。（大藪委員） ・渡り鳥の通り道となっており、なかよし池には、野鳥観察者から古いが置いておいてほしいと言われている樹もある。危険だから伐るという状況でない。（山崎会長） ・森が原生林化していくことが良いのかをはっきりさせる必要がある。公園の環境が里山から離れてきている。放っておく場所も、多様な生物の場所としてより里山的に手入れを行う場所も必要。（山崎会長） ・甲山自然の家付近の尾根筋にあるアカマツの実生をしっかり管理して、里山のアカマツ林管理として見せる、枯木や落ち葉を取り除き、山火事の延焼を防ぐとともに、コナラと共生するキノコが生える林にする、指標種をめざした管理をする、等が考えられる。（大藪委員） ・里山が荒れ、日当たりが悪いことからワレモコウ等の植物が減っている。野外ステージの周辺は可能性がある。ノカンソウが部分的にしかないことも日当たりの悪さが原因だろう。日当たりの良い場所は芝生広場のみであり、自由広場は刈り込みすぎである。（山崎会長） ・文化財の保全も目的としながら、樹木伐採より里山保全の伐採が必要である。（野澤委員） ・手を入れてよい場所がゾーニングで示されれば、公園利用者による取組みが可能である。（田村委員） ・現実に応じて無理のないゾーニングが良い。（田村委員）
2		樹木伐採に係る合意形成・情報発信のルールについて	・樹木伐採において、3ヶ月前から公表する必要があるなど、規制が厳しい。（大藪委員） ・当協議会の中で調整が可能ならば、例にあるようなルールを細かく決める必要はないのでは。（山崎会長） ・甲山は野生の自然であり、管理を自然に委ねる場合もある。（杉田委員） ・県が適切な樹木密度を決めて合意をとる等の方向性を決めてもらいたい。（吉岡委員）
3		その他	・ここ数年、カワセミ、クイナが見られ、キビタキの声も聴こえるようになってきている。（杉田委員） ・植物相が単純だと野鳥の種類が決まったものしかいなくなる。植物を増やす方向を願いたい。（杉田委員） ・高圧線の下で樹木伐採について、保全とは無縁の伐採であり、反対である。（野澤委員） ・関西電力が管理するエリア（高圧線の下）は低木林と設定することが可能。（田村委員）
4	活性化	—	・この公園について不平不満はなく、現状維持で良いと感じる。（中澤委員） ・家族連れの利用者や犬の散歩、鳥の観察等での利用者は、人が密集すると困るため、自然を残しつつ日陰が多い方が涼しくて助かる。（田中委員代理） ・活性化と自然環境を両立させるべきであり、人を呼び込めば良いというわけではない。消防訓練で利用し、樹にロープを張ることを許容している公園は面白い。新しい利用方法を許容できる場所であると良い。（山崎会長） ・はるまつりが最も入園者が多いと思うが、車で来園を減らす取組みを既に実施しており、これ以上の努力は疑問である。年間の来場者が100万人は大したもの。この100万人が満足することが重要。（吉岡委員） ・活性化の取組みについて、指定管理者にお願いしている内容で十分。（吉岡委員）
5	その他	—	・最近、一部のマナーの悪い来場者がいて、なかよし池周辺の住民とバードウォッチャーのトラブルが多くある。（杉田委員） ・休日は駐車場が満車で、入園をあきらめることも多い。（田中委員代理）